

1. 歩行者空間の計画

○歩行者の主要な動線を考慮した平面計画

歩行者の主要な動線として、東口と西口駅前広場をつなぐ松山駅広東西連絡線や、駅の西側にある幹線道路から駅までの歩道や通路を考えています。また、それらの動線を阻害しないように樹木やベンチを配置することで、歩行者に配慮した計画としています。

○視覚障害者誘導用ブロック

松山駅西南北線の幹線道路から松山駅や松山駅広東西連絡線に向けての通路、また、西口駅前広場のロータリー周辺とタクシー乗降場や身障者乗降場への通路について、視覚障がい者の方の安全に配慮した誘導ブロックを整備します。

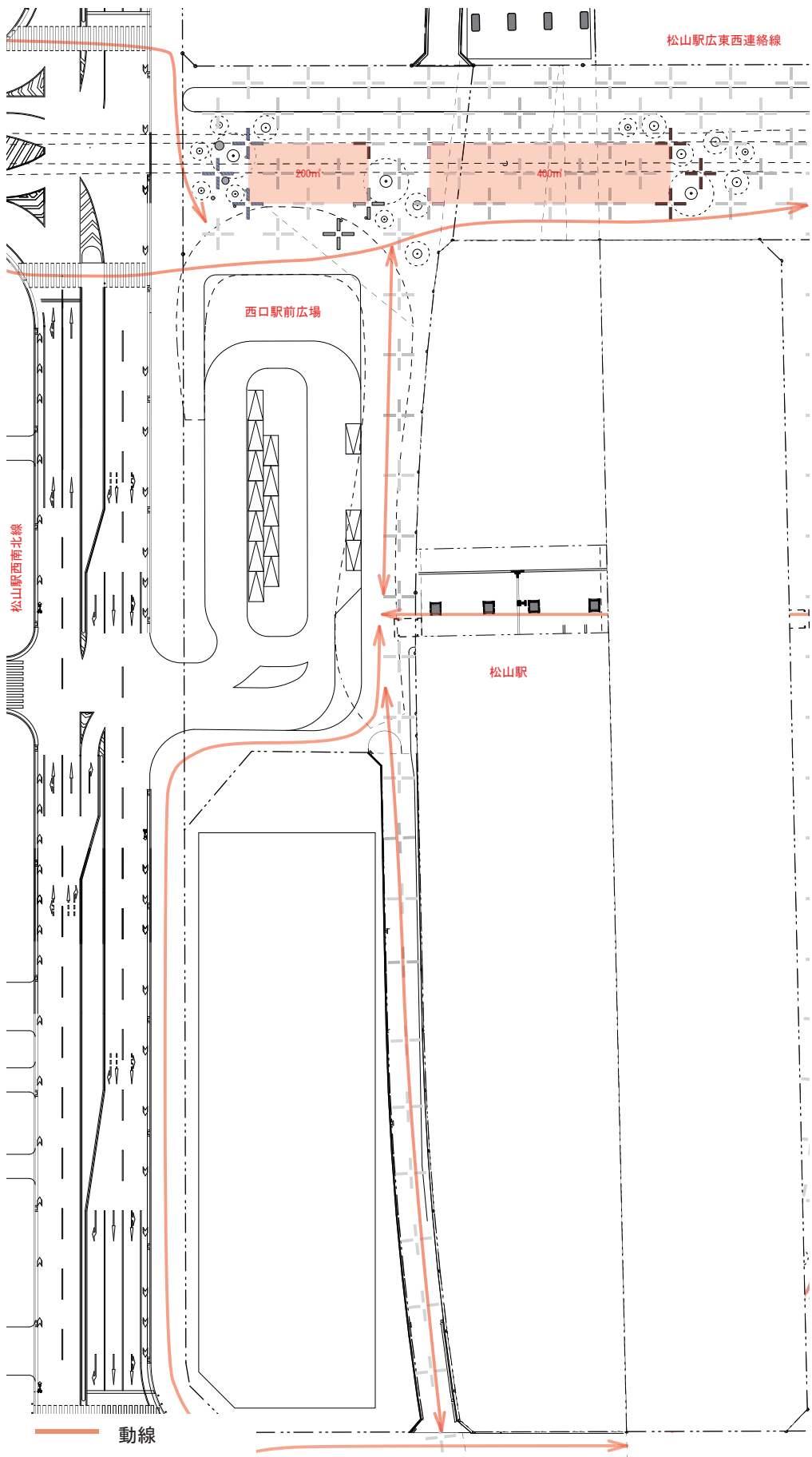


図 1-1 動線との関係

○グリッド

・アクティビティの拠り所となるグリッド

西口駅前広場や松山駅広東西連絡線などの歩行空間に5m×5mのグリッド(格子状)を設けるように考えています。この寸法はマルシェやキッチンカーなどイベントスペースで想定されるアクティビティにとって分かりやすく認識しやすいものとなっています。このような空間を生み出すための拠り所としてグリッド(格子状)を提案します。

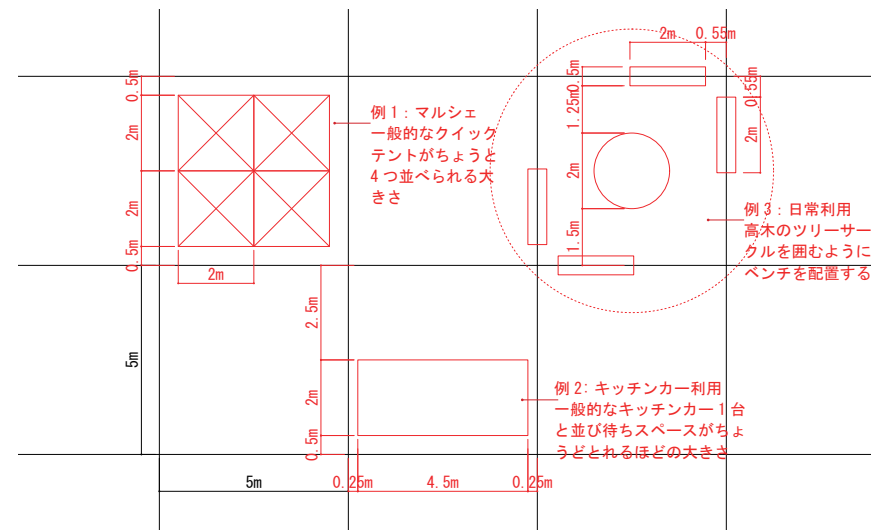


図1-2 グリッドを拠り所とするアクティビティ

○舗装パターン

・歩行者空間を彩る「伊予絊」模様

歩行者の通路部分について、インターロッキングブロックによる舗装を松山の伝統的特産物である「伊予絊」の十字模様として整備する計画としています。「伊予絊」の十字模様で道路を彩ることによって、松山・愛媛らしさを表現でき、また、イベントスペースをレイアウトする場合には、分かりやすい空間になると考えています。

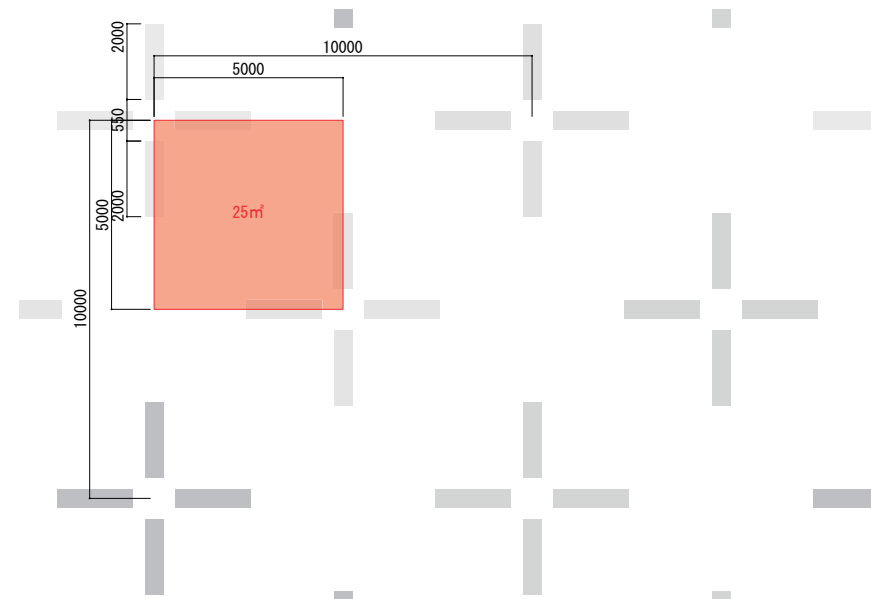


図1-3 レイアウトの手がかりとなる伊予絊模様

・歩行者空間や屋根と調和する十字模様

伊予絊の十字模様は、ゆらぎを感じられるものとなっており、歩行者空間や屋根の形状に柔軟に対応できると考えています。また、インターロッキングブロック舗装の色にばらつきを持たせることで柔らかい印象を与え、周辺環境と馴染むようにします。

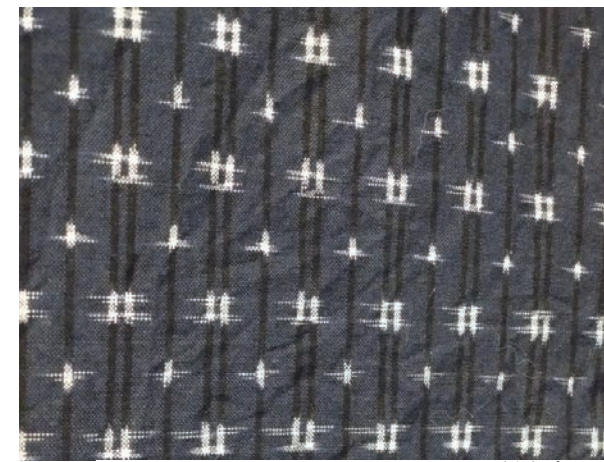


図1-4-1 伊予絊参考写真

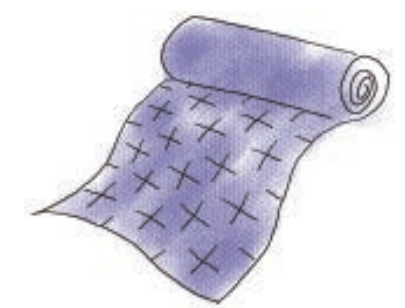


図1-4-2 ゆらぐ伊予絊生地

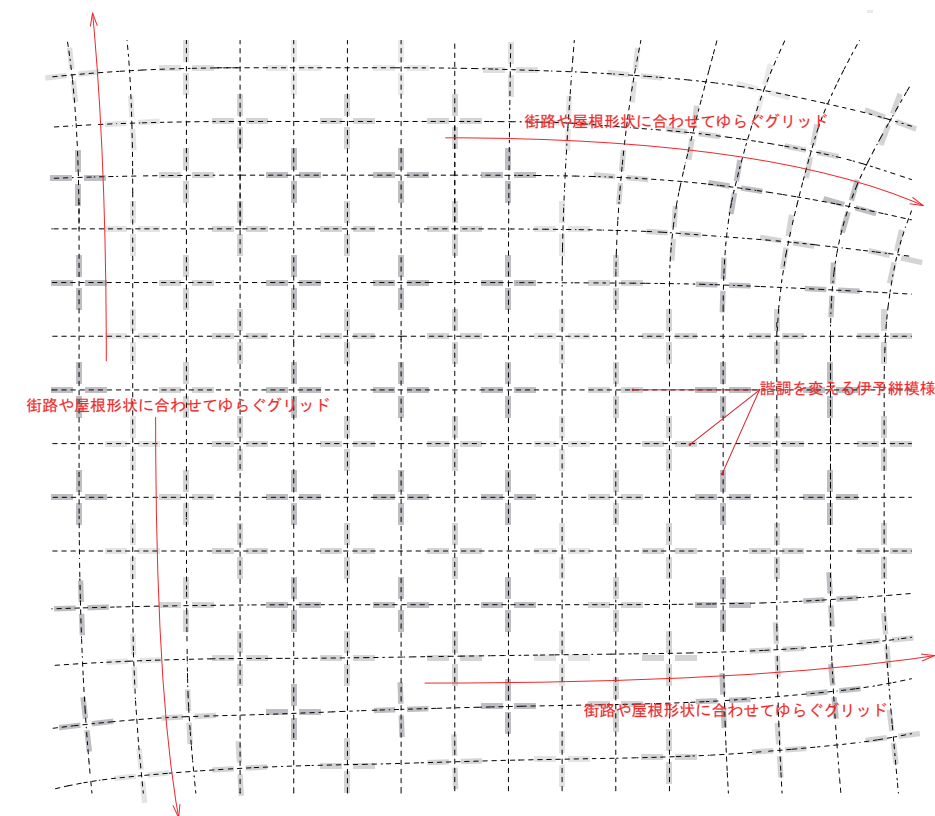


図1-5 ゆらぐ伊予絊模様

○ベンチ

・十字模様配置したベンチによるイベントスペースの構築

舗装の十字模様に合わせてベンチを配置することで、様々な大きさのイベントスペースを築きます。ベンチはイベントスペースの目印となるだけでなく、空間を生み出す役割を担います。

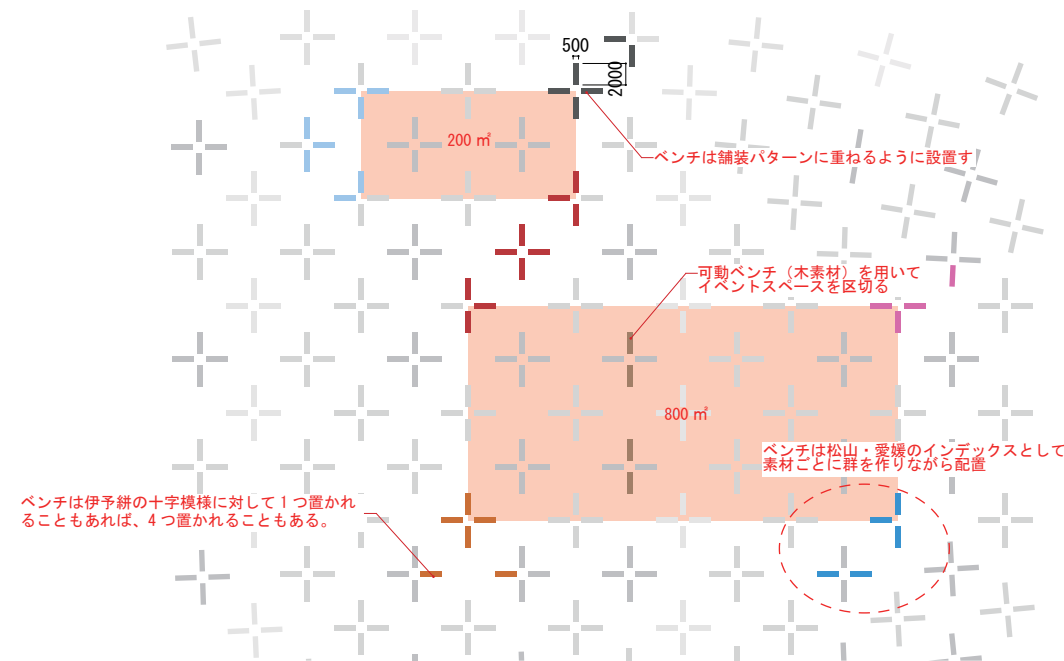


図 1-6 ベンチ配置図

・多様な利用価値を持ったイベントスペース

集客効果や地域のにぎわいの創出など様々な利用価値を生み出すことを目的として、イベントスペースを設けることを計画します。西口では25 m²～200 m²のイベントスペースを確保します。最小の25 m²のスペースはキッチンカー一台から借りることが可能となります。最大の200 m²のスペースは、岐阜県多治見市にある虎溪用水広場の「イベントスペース下段」と同等の大きさです。「イベントスペース下段」ではフリーマーケット、コンサート、大道芸など様々な活動が展開されています。



図 1-7 虎溪用水広場イベントスペース下段

○樹木・テーブルなどによる空間づくり

・居場所を作る樹木、テーブル、ベンチ

樹木やテーブルは、ベンチの周囲に配置することで、イベントスペースとしての場の形成に役立ちます。また、イベントが開催されていない時には、滞留空間（ルーム）として日常的に利用できる居場所となり、憩いの場を提供します。テーブルは様々な大きさや高さのものをデザインすることで多様な居場所を作ります。

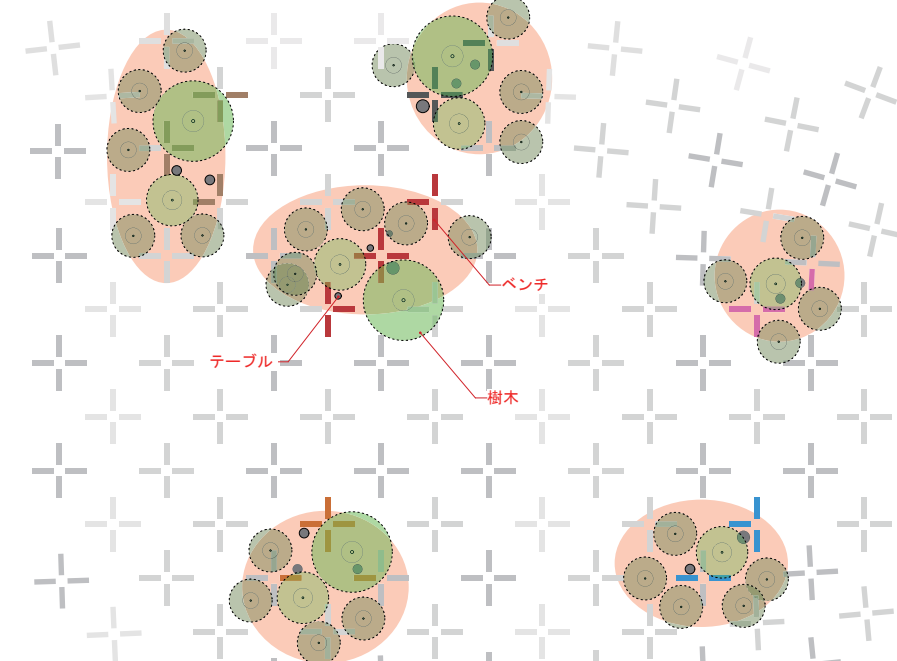


図 1-8 樹木・ベンチ・テーブルによって作られる滞留空間の図



図 1-9 樹木・ベンチ・テーブルによって作られる滞留空間

○松山・愛媛のインデックスとしての樹木とベンチ

樹木とベンチの具体的な素材は、松山・愛媛にゆかりのある素材を用います。素材の中には現在も生産、使用されているものもあれば、現在は使用されていない歴史的なものも含まれます。歴史的な素材は、道後温泉（日本最古）、松山城（安土桃山～江戸）、正岡子規・坊っちゃん（明治）、萬翠荘（大正）、愛媛県庁本館（昭和初期）など、多様なスタイルの建築が街のなかに残り、歴史的な都市でありながら、どこかひとつの時代にしぼりこむことができない多様性を持つ松山の街の魅力を伝えるものになります。松山・愛媛に関わりの深い材料や伝統技術、文化に根ざした素材を用いることで、県都の玄関口にふさわしい空間づくりを行います。

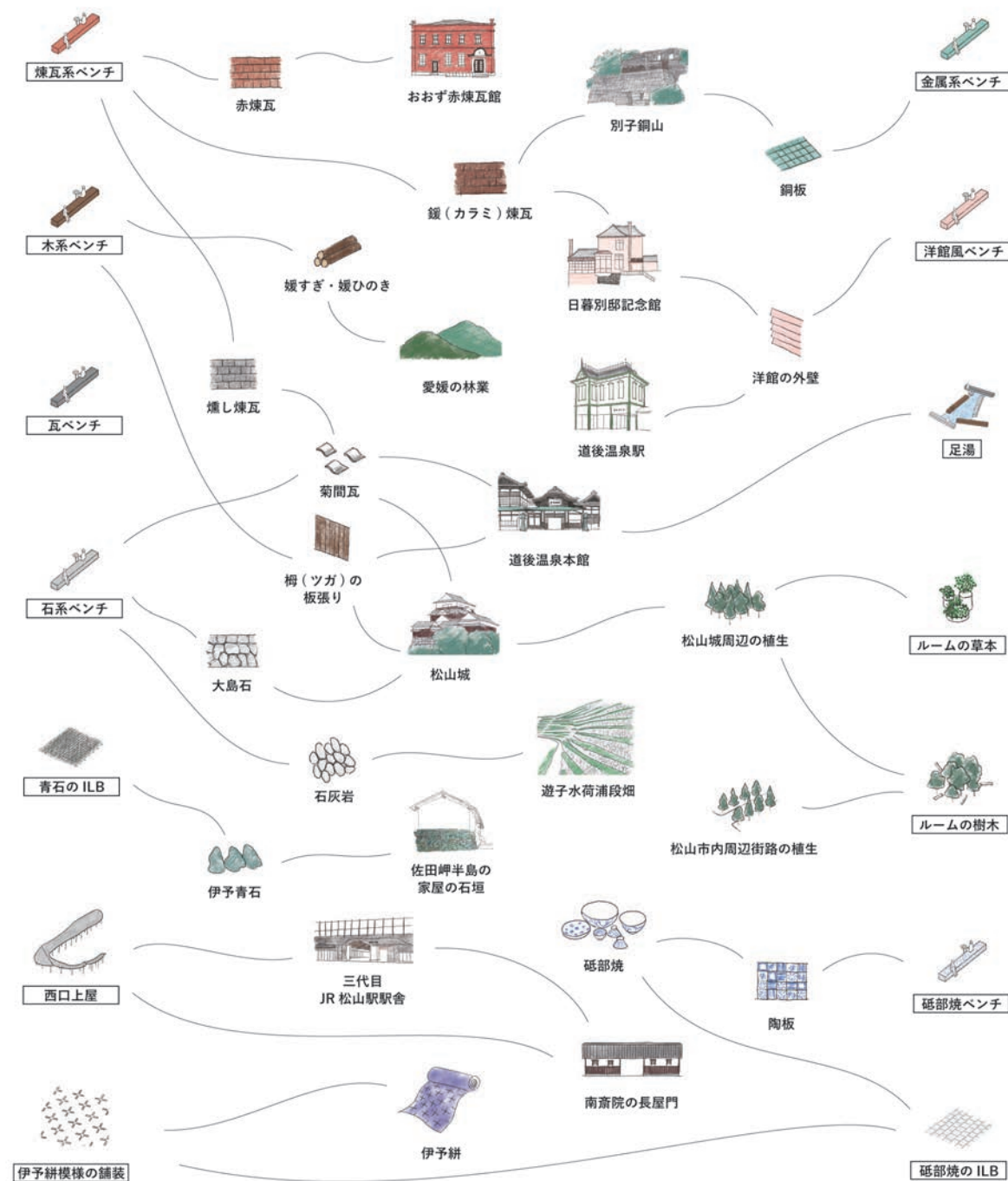


図 1-10 松山・愛媛のインデックス

2. 西口駅前広場の計画

(1) 交通計画

○ロータリーの計画

関係者との協議をふまえ西口側ロータリーで担う交通機能は下記とします。

身障者乗降場 1 台

一般降車場 4 台

タクシー乗車場 2 台、降車場 1 台、

タクシー待機場 12 台

短時間駐車場 7 台

荷捌き場 2 台 + 荷捌きスペース

○自転車走行レーン

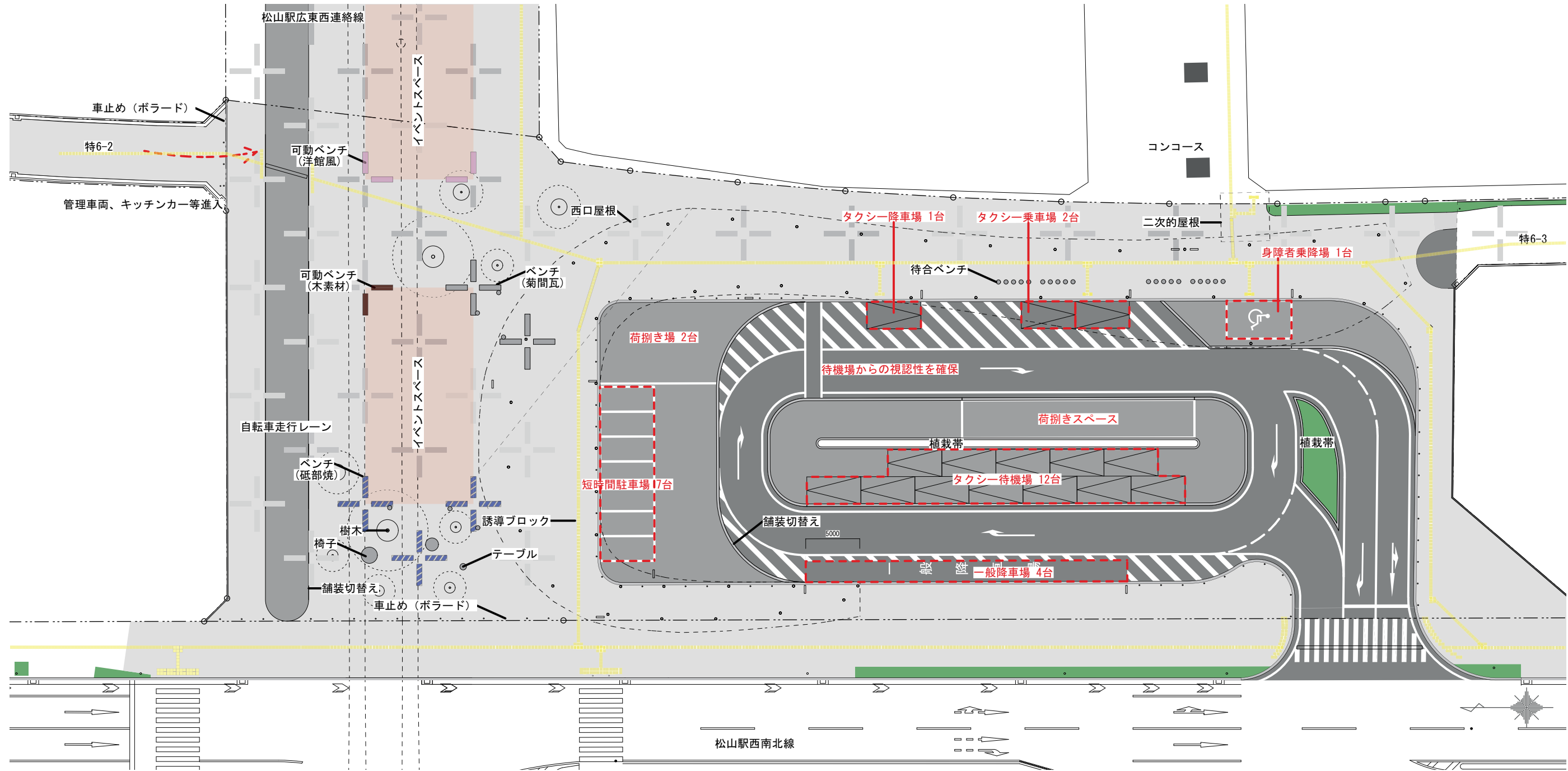
松山駅広東西連絡線は自転車の走行レーンを計画し、自転車の通行を誘導します。

○西口駅前広場への車両進入

植栽・下水道等の管理用車両やキッチンカー等のイベント車両の進入は、特 6-2 号線（北側）からとします。また、特 6-2 側にボラードを設置します。松山駅広東西連絡線と松山駅西南北線の間には縁石の切り下げは設けず、松山駅広東西連絡線側にボラード（自転車走行レーン部分以外）を設置します。

○視覚障害者誘導用ブロック

松山駅西南北線の幹線道路から松山駅や松山駅広東西連絡線に向けての通路、また、西口駅前広場のロータリー周辺とタクシー乗降場や身障者乗降場への通路について、視覚障がい者の方の安全に配慮した誘導ブロックを整備します。



※今後の検討や関係者との協議により変更の可能性あり。

図 2-1 計画平面図 S=1:500

(2) 屋根の計画について

○計画概要

屋根はロータリーに沿った主要な歩行者動線を覆うように計画します。緩やかにカーブする形状で街と接続し、便利で安全な歩行者動線を確保します。カーブする屋根は駅舎の底のような存在となり、抜けのある大らかな構えとします。

○屋根形状の計画方針

・長屋門としての駅舎と調和した外形デザイン

本計画では、長屋門としての駅舎と調和したデザインとして、松山に多く見られる長屋門の、長く続く平入屋根を踏襲しています。西口駅前広場北側のイベントスペース部分についても屋根を折ることで屋根の高さを下げ、居心地のよい軒下空間をつくり出しています。

○構造計画

・駅舎とまち両方のスケールを取り入れる

軒裏は仕上げ材を貼らずに構造材を見せ、鉄骨梁と木垂木で屋根面を構成します。鉄骨梁は駅舎や屋根の土木的なスケールと調和し、木垂木は西側のまちのヒューマンスケールと調和します。



図 2-3 旧農村の長屋門

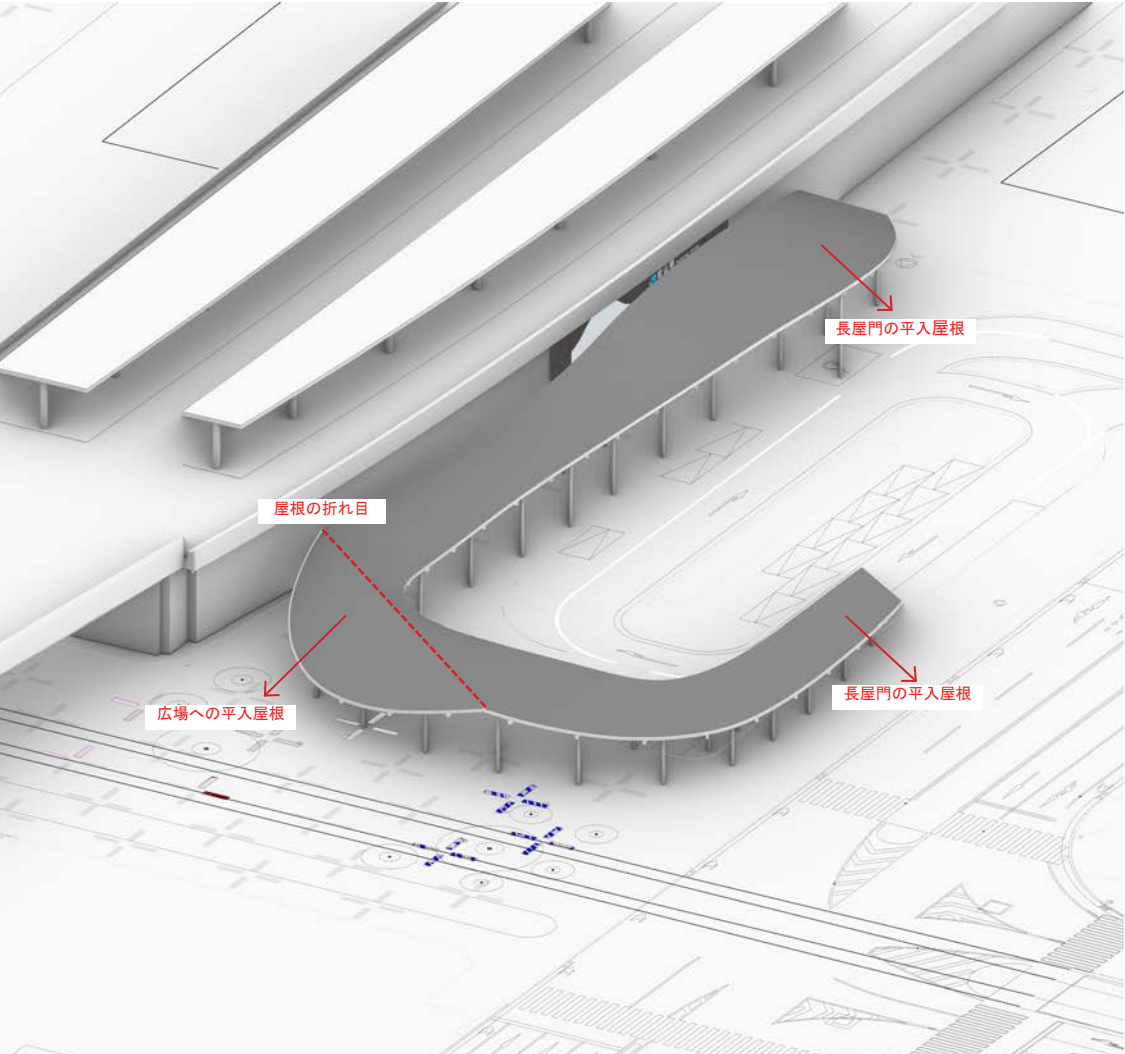


図 2-2 西口屋根の俯瞰

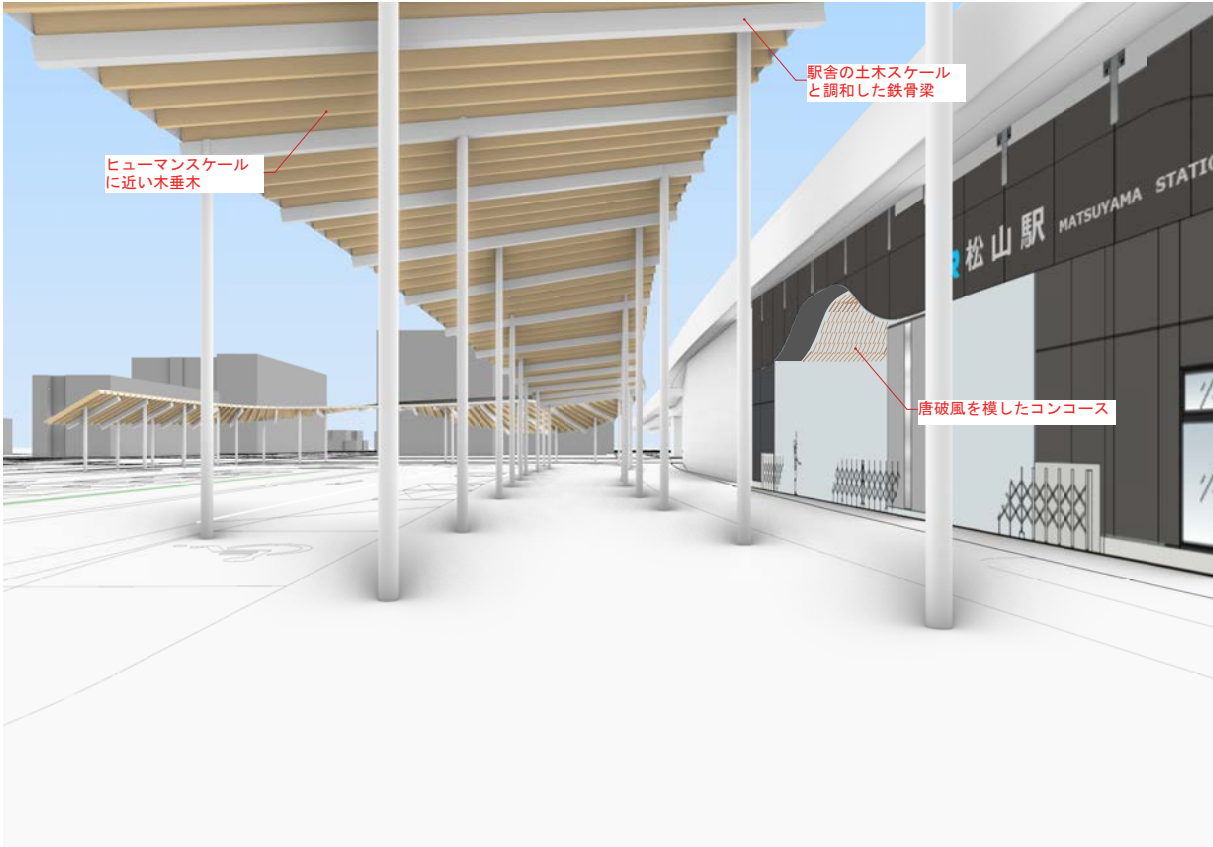


図 2-4 西口屋根下パース

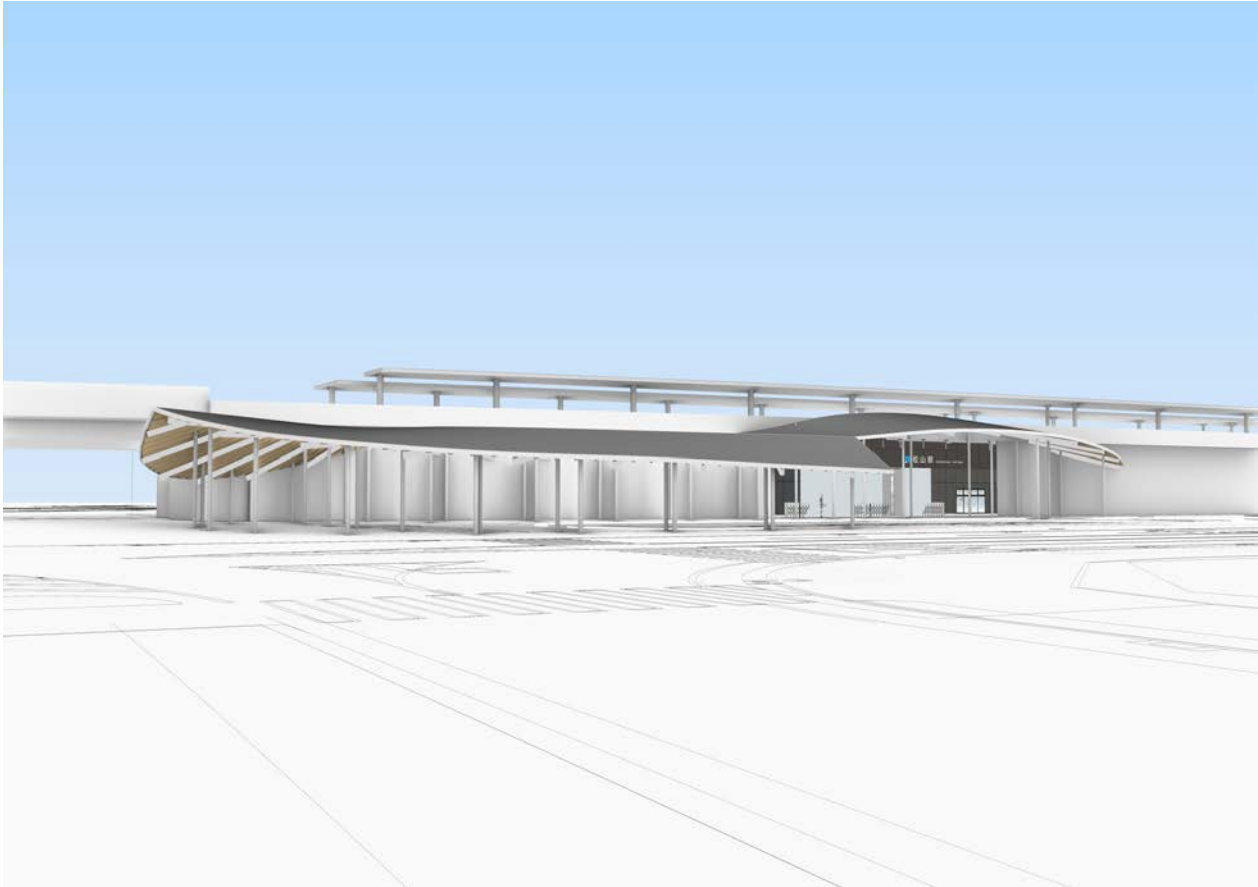


図 2-5-1 交差点より西口屋根を見る

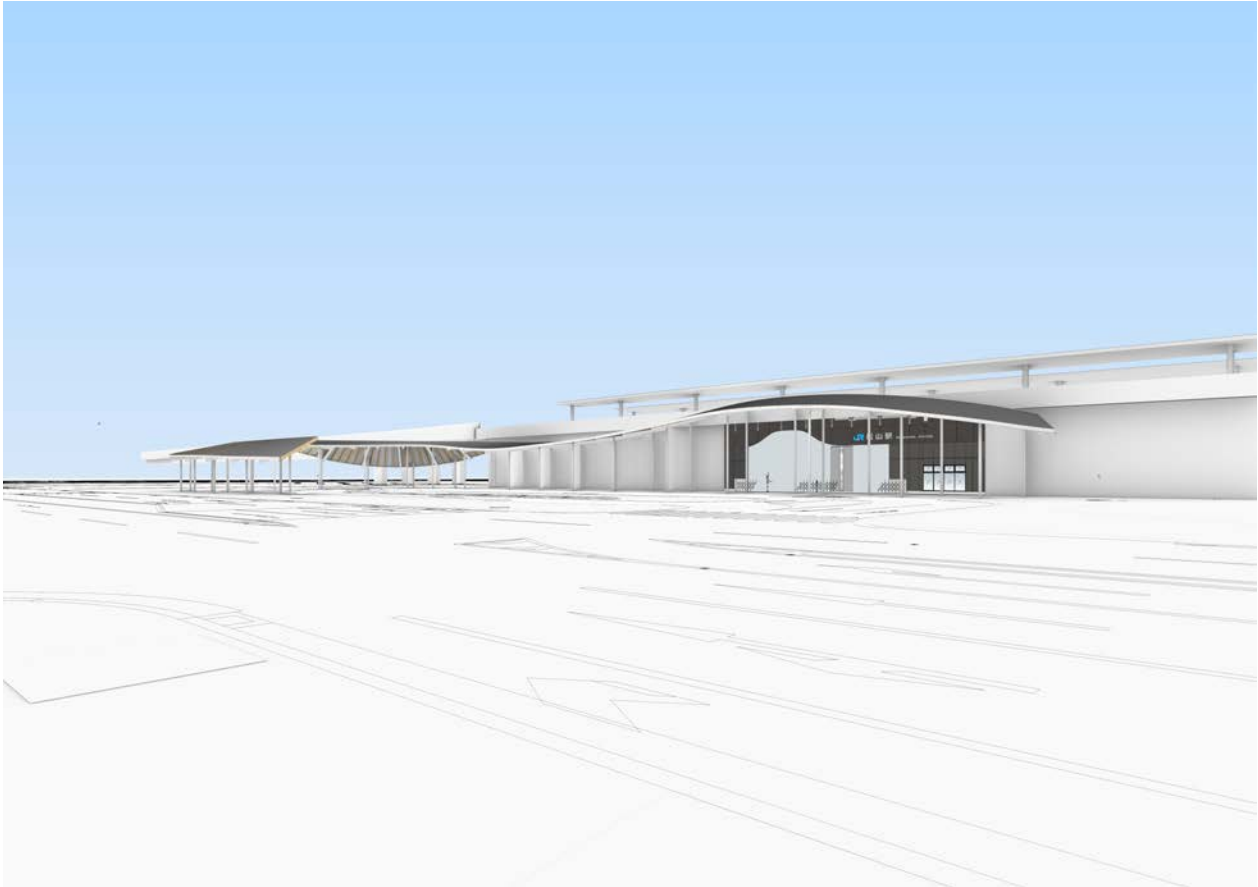


図 2-5-2 松山駅西南北線から見る

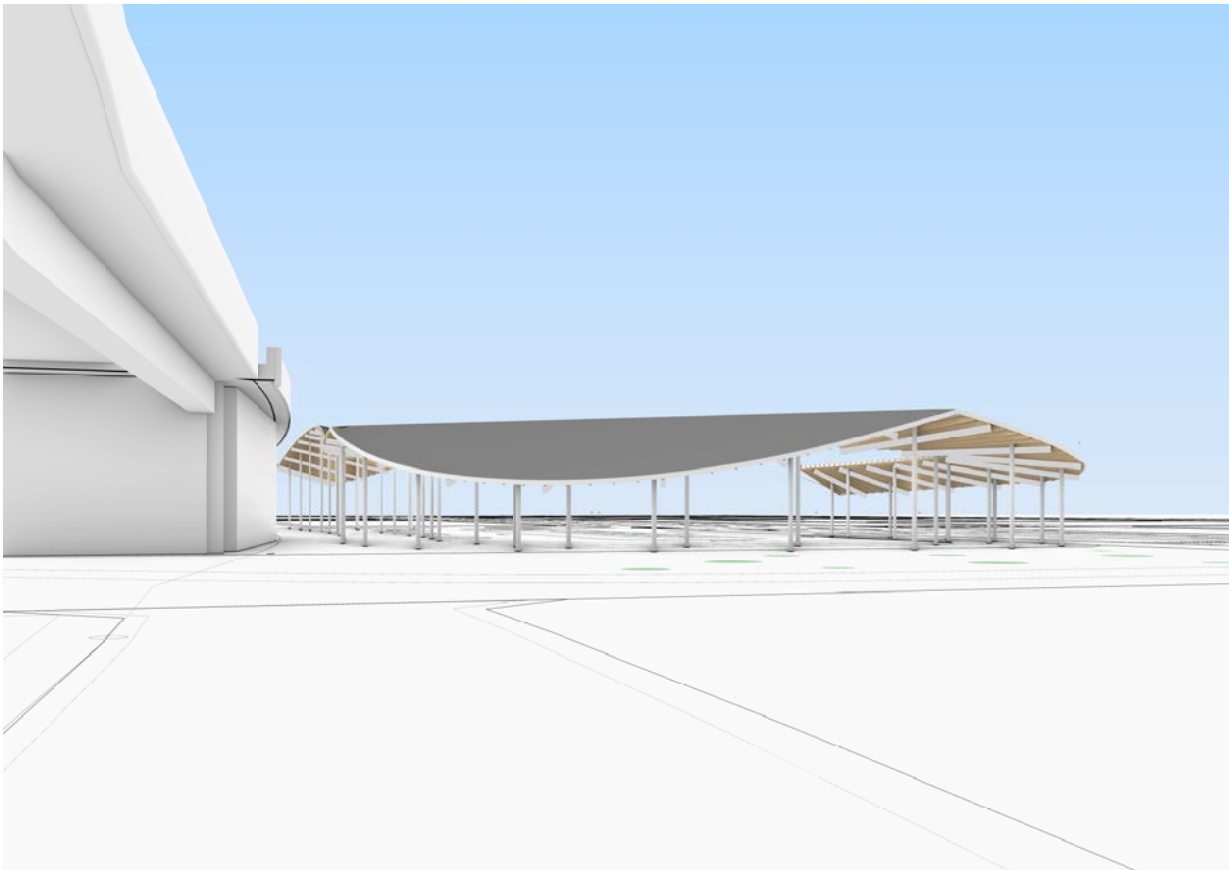


図 2-5-3 特 6-2 から見る



図 2-5-4 松山駅西南北線から見る

3. 素材選定の基本方針

○舗装

・舗装材種・色について

駅前広場において、ベンチなどの松山・愛媛にゆかりのある素材を引き立たせるために舗装は展示空間の白い壁を参照して明るい無彩色の「舗装材あ」とします。

街路については歩道の基本舗装材は骨材に青石を使ったインターロッキングブロック「舗装材え」、街路の滞留空間は広場と同様にベンチの素材を引き立てるために「舗装材あ」とします。

車道部分については景観上重要で、タイヤが舗装面を捻る交差点部分は半たわみ舗装の「舗装材う」とし、それ以外の一般部はアスファルト舗装とします。



図 3-1-1 展示室の白い壁



図 3-1-2 地元産骨材（青石）の利用

・舗装材サイズについて

舗装サイズについては 10cm 角のもの（100 角ブロック）を使用することを検討します。このブロックはサイズが小さいため、繊細な表現が可能となり、デザイン性を重視する施工では、非常に有効だと考えています。例えば、伊予絣のもつ「ゆらぎ」をデザインに取り入れる際に、ゆるやかな曲線を描くような施工が可能になるなど、平坦ではない路面へ対応しやすいメリットが考えられます。

・保水性について

インターロッキングブロックや基盤材に保水性のものをを用いることで、蒸散による夏場の、気温低減などの効果が考えられます。費用対効果を考慮し、どの素材を、どの程度どこに使用するかを検討します。

・試験施工について

舗装材は実際に試験施工を行い、性能上問題ないか確認を行っています。

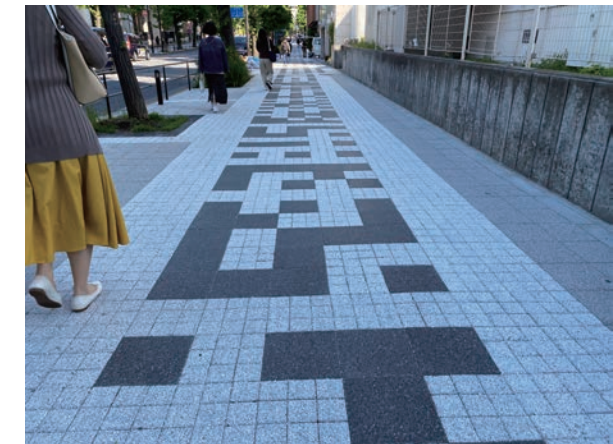


図 3-2-1 東京・西参道街路に用いられる 100 角ブロック



図 3-2-2 試験施工写真

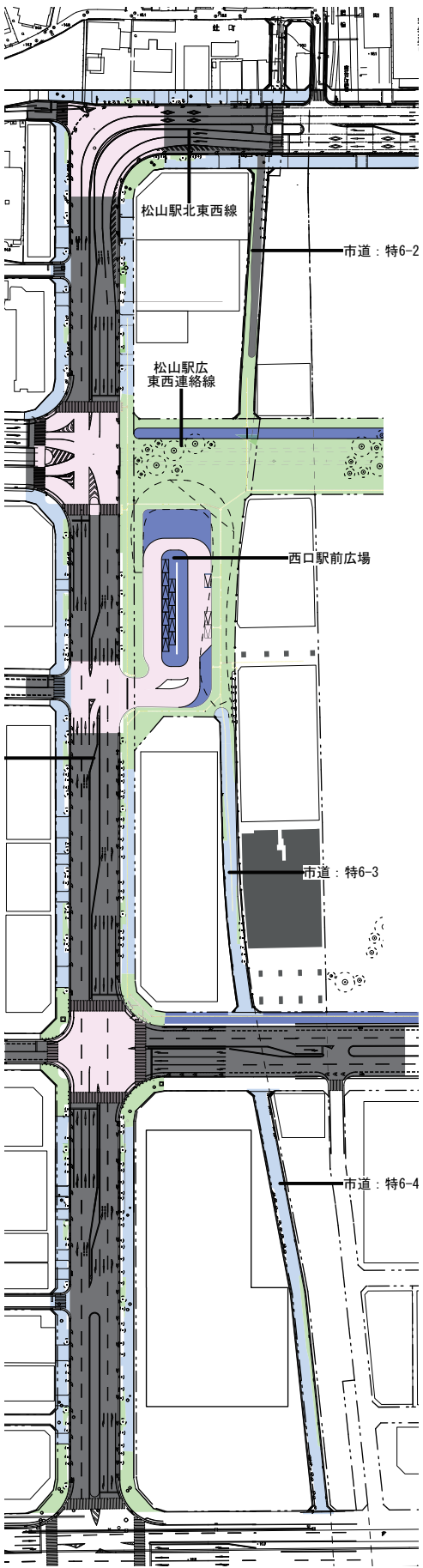


図 3-3-1 舗装種類ごとの塗分け平面図 S=1:2500

■舗装材あ 種類： インターロッキングブ ロック 色味： 白（N-80 程度） 素材： 地域の素材の使用を想定 写真は骨材に砥部焼を使用		明 ↑
■舗装材い 種類： インターロッキングブ ロック 色味： 薄グレー（N-60 程度）		明度 ↓
■舗装材う 種類：半たわみ舗装 色味： グレー		
■舗装材え 種類： インターロッキングブ ロック 色味： N-55 程度 素材： 地域の素材の使用を想 定。写真は青石を使用し たもの		
■舗装材お 種類： アスファルト舗装 素材： 一般的なアスファルト舗 装		暗 ↓

図 3-3-2 舗装材の凡例

○屋根

・屋根葺き材

松山の景観を形成する重要な要素として、松山城をはじめとした建築物の屋根に使用されているいぶし銀の菊間瓦が見られます。菊間瓦に似た風合いを持つ素材として、時間が経つにつれ落ち着いた色合いに変化し、耐久性も高い素材である亜鉛合金板を使用すること検討します。



図 3-4 亜鉛合金板を用いた縦ハゼ葺きの事例
出典：新星商事 HP

○工作物等

駅前広場に出てくる要素として、屋根を支える柱や堅樋、各種照明柱およびボラードなどの工作物をはじめ大小様々なポールが計画されます。これらを松山・愛媛にゆかりのある素材でつくるベンチ等を引き立たせる要素とするために、全てを景観上落ち着いた色味で、かつ高耐候性の見込めるリン酸処理で統一するものとします。リン酸処理ができないものについては、同等の色味の指定色塗装にするなどを検討します。



図 3-5 リン酸処理仕上げ参考イメージ

・ 工作物リスト

表 4-1 工作物リスト

	多目的柱（車道用照明柱）	歩道用照明柱	演出照明	架線柱	各種 標識柱	サイン	地上機 各種盤	防護柵	ポラード
立面図									
仕上げ	リン酸処理	リン酸処理 or 指定色塗装	グレー焼付塗装	リン酸処理 or 指定色塗装	グレー焼付塗装	グレー（焼付塗装）	グレー焼付塗装	リン酸処理 or 指定色塗装	リン酸処理 or 指定色塗装
広場	／	●	／	●	●	●	●	／	●
街路	●	●	●	●	●	／	●	●	●
計画 方針	信号、標識、トランス等の支持部は必要強度に応じて円柱の太さを決定し、上部のスポットライトの設置部分は必要強度が小さいため軽やかに見えるよう柱径を絞る設計とする。スポットライトは照らす方向を調整できるため照明柱の位置を比較的柔軟に決められる。信号柱などの他の柱と共架しやすく、本数を削減できる。	ポールにスポットライトを設置し照らす方向や角度を調整できる計画とする。	植栽帯の中に配置し主に足元を照らす。	路面電車の架線を支持する。	柱および標識の裏面をグレーとし景観に配慮する。	表記内容を問わず形状を一種類に統一する計画。グレーとし景観に配慮する。	グレーとし景観に配慮する。	シンプルな円柱とし横断防止のためにチェーンを設ける。	シンプルな円柱形状で計画する。
参考 事例	花園町通りの多目的柱 	熊本駅照明柱 (形状のみ参照) 	参考製品写真 		花園町通りの標識 	熊本駅のサイン 	花園町通りの盤 	真岡市新庁舎の ポラード+チェーン 	真岡市新庁舎の ポラード
共通点	標識、信号、照明が一体となった多目的柱で照明が付く頂部は径を絞る点	ポールに対してスポットライトを設置する点	照明柱と同様にポールにスポットライトが付く点		標識柱と裏面をグレーとし景観に配慮する点	サインの形状をひとつの形状に統一する点	景観に配慮し他の工作物と同様のグレーとする点	円柱形状にチェーンを取付け、リン酸処理仕上げとする点	円柱形状でリン酸処理仕上げとする点

※使用する素材や仕上げ方法は設計中のものです。今後の検討や関係者との協議により変更することがあります。